

経営に関する最新情報をお届けします！

経営トピックス

Management topics



「POファイナンス」が始まりました
～受注はあるのに
運転資金が苦しいことありませんか～

町田市経営診断協会 福田 幸俊 (中小企業診断士)

「黒字なのに手元に運転資金が乏しい」「いつも資金繰りに汲々としている」「大型案件を受注したいが、入金までの運転資金が心配」などの悩みはありませんか。そんな経営者、管理者の方にPOファイナンスの紹介をします。

受給前の補助金担保に。 中小企業庁が新制度。

3月24日の日本経済新聞朝刊1面にこのような記事が出ていました。目を留められた方も多いと思います。

補助金交付決定から実際の補助金を受け取るまでに半年前後の時間差があります。その間に運転資金が乏しい会社は、何とか色々な手段で補助金受け取りまで頑張らないとなりません。その新しい手段として、補助金交付決定を担保につなぎ資金を確保する取り組

みを取り上げた記事です。そしてこの取り組みは補助金関係だけ無く、一般の商取引にも同じように使うことができるのです。

POファイナンスとは

POファイナンスのPOとはPurchase Orderのことであり、日本語で注文書を意味します。一言でいうとお客様企業からの注文書があれば検収（売上債権の確定）完了前に注文書を電子記録債権（※）として金融機関とネット上で取引することで、資金調達ができる仕組みです。

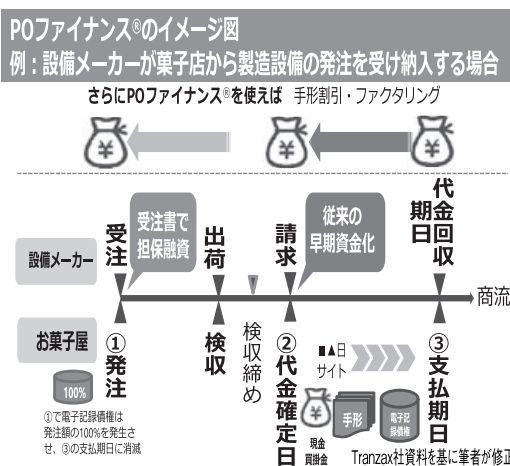
※電子記録債権とは2008年に施行された従来の手形や売掛債権を超える特長をもった新しい金銭債権です。電子化により事務の合理化やコスト削減などが期待されています。

補助金採択が決まった時点でつなぎ融資に対応してくれる金融機関もありますが、預金や取引状態など会社信用のみで判断されることが多いと思われます。POファイナンスは借りの側の信用だけではなく注文書自体に対して総合的な判断をして融資を行います。今まで融資を受けづらかった会社にとっても融資の可能性が広がります。

受注時からの運転資金確保

運転資金確保の流れについて、菓子店から菓子を製造する設備を受注した設備メーカーを例にお話しします。設備メーカーは受注後に材料を調達したり、協力会社に作業を頼みます。

その際に材料費や作業費などを支払う必要が生じます。一方、入金は納入後の支払期日となります。その間の資金は設備メーカーが負担します。今までは、代金確定日以降に手形割引などで資金を確保していました。POファイナンスではさらに遡って受注時に資金を確保できるのです。



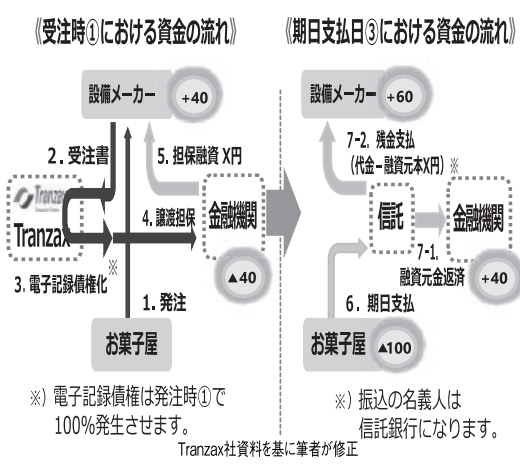
POファイナンスの メリット、デメリット

- ① 設備メーカーのメリット
すでに触れてきた通り、受注時の資金調達が可能なことです。
- ② 設備メーカーのデメリット
融資金利とは別に、利用開始時に756円（現状0円）と、利用のたびに電子記録債権発生に関わるシステム利用料が発生します。

しかしながら、運転資金を容易に確保できるメリットと比べるとデメリットは少ないと思います。

POファイナンスの仕組み

左の図は設備メーカーが受注金額の40%を運転資金として受注時に確保するものです。設備メーカーは受注金額を電子記録債権化して、提携している金融機関に担保融資を受けます。そして金融機関からは担保融資を受けます。期日支払日に菓子店は信託銀行に全額支払い、設備メーカーは信託銀行から残額を受け取ります。



※POファイナンスは「Tranザ」株式会社の登録商標です。

POファイナンスはまだ多くの方に馴染みがないと思います。冒頭でお話ししました通り、本年度のものづくり補助金制度にはこのPOファイナンスが明記されており、今後普及すると思われる。運転資金調達の1つの手段として活用を考えてはいかがでしょうか。